

『新しい新津地域のまちづくりに向けて』
- 新津商工会議所の期待と決意 -

提言の骨子と概要

平成17年3月

新津商工会議所
まちづくり協議会

はじめに



新津商工会議所 会 頭
まちづくり協議会 会 長
馬 場 欣 一

今年の3月21日には、いよいよ新津市が新潟市に編入合併して新しい新潟市の仲間入りをすることになります。

新津市の場合は、同時に新潟市に合併する他の近隣市町村と違い、合併反対勢力の抵抗により一旦合併協議から離脱するなど、紆余曲折の末、遅れてようやく合併することになりましたので、感慨無量であります。

当商工会議所では、平成15年10月に、新潟市周辺13市町村の広域合併による政令指定都市実現に向けた動きを支援協力するために、「まちづくり協議会」を設置して諸活動を推進することになりました。

広域合併についての勉強や意見交換を重ね、理解を深めるとともに、合併推進に向かったの意思結集を図ることが出来ました。合併が危惧された中で、「まちづくり協議会」の果たした役割は大きかったものと自負しております。

さて、当会議所としては、市町村合併を契機に、合併特例債による文化会館、総合体育館の建設への期待を含めて、新津地域の「新しいまちづくりビジョン」を作成しなければならないと考えました。

新津地域には、他の地域にない「宝物」があります。自然豊かな丘陵地、アザレア、さつきなどの花卉、花木、JRの車両製作所と鉄道資料館、新潟薬科大学とバイオ、などなど。これらの「宝物」も新しいまちづくりの中に生かしながら、「賑わいのまち」、「憩いのまち」、「希望の持てるまち」を夢みて、本提言書をまとめてみました。

提言書は、プロが書いた様な完成度の高いものではありません。会議所の各層で話し合ったものを集約して、取り敢えずまとめたものであります。

行政サイドでは、既に検討、考慮されておるものも多々あるかもしれませんが、行政の今後のまちづくりの際に、些かなりとも参考にして頂けたら幸いです。

なお、新津市と新潟市が合併した後でも、当会議所では、行政当局に直接、間接的に提言をして参りたいと考えております。

合併を機に、新津地域がますます発展し、私共が願っている夢が将来、確実に実現することを期待するとともに、その推移を見守り続けたいと考えております。

- 目 次 -

提言の骨子

- 1 . 本提言書における新津商工会議所の期待と決意
- 2 . 本提言書に盛り込まれた内容等について
- 3 . まちづくりビジョン（案）の理念とコンセプト
- 4 . 公共交通ネットワークの機能拡充に関する提言
- 5 . 「駅前・本町地域」周辺のまちづくりに関する提言
- 6 . 文化会館、総合体育館、図書館等に関する提言
- 7 . 「駅前・本町地域」周辺の『まちづくりビジョン』（案）

提言の概要

- (1) 本提言書の作成経緯
- (2) 新津地域のまちづくりビジョン(案)の理念とコンセプト
- (3) 駅前・本町地域（中心都心核）周辺に求められる必要機能
- (4) 駅前・本町地域周辺のまちづくりに関する提言
- (5) 文化会館、総合体育館、図書館等の整備に関する提言
- (6) まちづくり協議会における意見交換のまとめ
- (7) 新しい新津地域のまちづくりに向けて

提言書の骨子

1. 本提言書における新津商工会議所の期待と決意

本提言書は、合併を契機として、新津地域が今後ますます発展することを願い、「新津地域のまちづくりビジョン」を明らかにすることを目的としたものであり、以下のような期待と決意の下に作成されたものです。

新津商工会議所の期待

今回の広域市町村合併を契機に、政令指定都市の中核地域拠点として、新津地域が発展する。

分権型政令市指定都市、田園型政令指定都市の一翼を担う「新津地域」として『希望の持てるまち』『賑わいのあるまち』『憩いのあるまち』となる。

これまで培ってきた歴史・文化が合併により損なわれるのではなく、政令指定都市効果により、これまで以上に『地域の宝物』として光り輝く。

新津地域が発展するためには、商工業・農業等をはじめとした経済界の発展・活性化が重要な要因であり、新津地域の各企業等が今回の合併を前向きに捉え、積極的に様々な努力を続けることで、地域発展の原動力となる。

バイオ技術の活用や政令指定都市効果による交流人口の増加等により新しいビジネスチャンスが生まれ、地域経済が活性化する。

市民・企業（商工業・農業等）・大学等の研究機関・行政がそれぞれの特性を活かしながら、協働で、「日本海側初の新潟政令指定都市の実現」を推進させる活動を行うことで新津地域はもちろん、「新潟全体」の発展が図られる。

新津商工会議所の決意

歴史・文化を大切にしながら「まちづくりビジョン」を明らかにするとともに、そのビジョンの実現に向けて、積極的に行動する。

「新しいまちづくり」を推進することで、地域経済の活性化を図り、活力のある地域社会の実現に向けて様々な活動を展開する。

地域経済の活性化については、政令指定都市効果や地域の持つ特性を背景に、企業誘致等を行うことで、商工業の発展に向けての活動を展開する。

（例：JR 車両製作所に関連した製造企業等の誘致を検討）

地域社会の発展に貢献する公益団体として、市民、産業界、研究機関、行政等が連携・協働できるようなシステム構築に向けての活動を展開する。

合併に伴う、行政機構の変革に対応し、地域の想いや商工業者の願いを実現させるために、今後も『行動する新津商工会議所』として、行政当局に積極的に提言等の様々な行動を展開する。

2 . 本提言書に盛込まれた内容等について

本提言書は、新津商工会議所「まちづくり協議会」等における調査・検討をもとにとりまとめたものであり、記載された内容の熟度は高い物であるとは言えず、実現に際し、各種の前提条件（法的規制、予算面等々）により困難な物もあると思いますが、将来の「新津地域の発展」を願って、真剣に検討したものであり、今後のまちづくりに少しでも役立つものがあれば幸いです。

本提言書に盛込まれた内容

政令指定都市の「都市像」や新津がこれまで培ってきた歴史・文化、新津が有している社会資源、社会状況等を参考にしながら、分権型、田園型政令指定都市における「中核拠点都市」としての『新津地域のまちづくりビジョン』を明らかにしております。

「希望の持てるまち」「賑わいのあるまち」「憩いのあるまち」

政令指定都市における「地域拠点間の連携」を図るためには、地域を結ぶ公共交通網の整備が重要であり、新津地域の発展のために重要であると思われる公共交通ネットワークの機能拡充に関する提言をさせて頂いております。

新潟都心部や周辺地域拠点との広域交通網の機能拡充

新津地域の各『地域拠点』間の区域内交通網の機能拡充

新津の特性である鉄道の機能拡充（パークアンドライド等も含めて）

新津地域の発展を支えるためには、地域の顔となる「中心市街地」の活性化が不可欠であるという認識のもとに、新津駅を中心とした『駅前・本町地域』における「まちづくりコンセプト」を明らかにしております。

『みんなを迎えるまち』

（「おもてなしの心」「全人的なつきあい」「ユニバーサルデザイン」）

「新津地域の顔」にふさわしい都市機能の集積

（中心市街地商店街と連携した「まちづくり」：商店街の活性化）

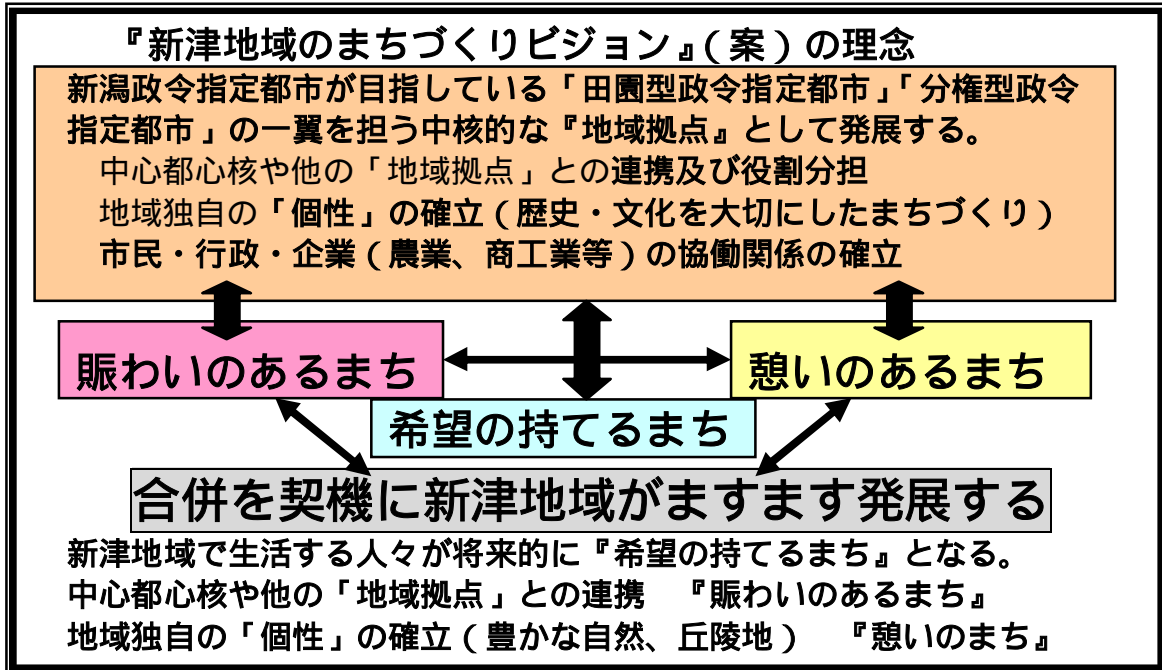
文化会館、総合体育館、図書館等に関しては、『駅前・本町地域』の活性化を図るために都市機能を集積させるという観点で、施設整備の方向性を明らかにした上で、施設建設場所についての提案を複数案お示しさせて頂いております。（建設場所、施設内容、施設規模等に関して「利用する」方々を中心として、全市民的な議論を行った上で決定することが重要。）

『駅前・本町地域』周辺に集積させるべき施設

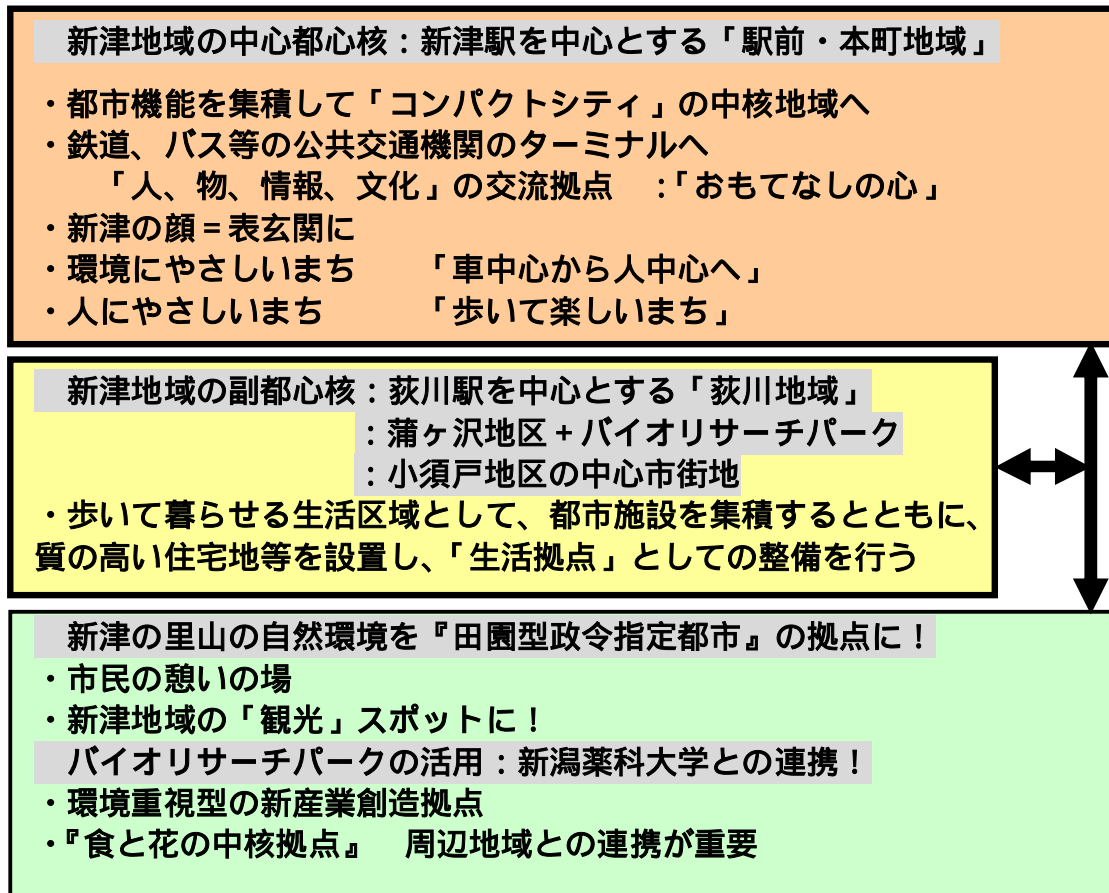
- | | |
|--------|-----------------------|
| ・文化会館 | ・多目的施設（本町二番館の代替施設） |
| ・総合体育館 | ・高度医療機関（第2新潟市民病院的な施設） |
| ・図書館 | ・高齢者通所施設 |
| ・新設保育園 | ・障害者通所施設 |

3. まちづくりビジョン(案)の理念とコンセプト

将来の都市ビジョンのあり方を抽出するとともに、政令市の都市像、政令市になるメリット等を抽出し、新津市の歴史・文化や社会資本等の現状を把握した上で、「まちづくりビジョン」の理念とコンセプトを構築しております。



新津地域内の各『地域拠点』のまちづくりコンセプト



4 . 公共交通ネットワークの機能拡充に関する提言

新津地域は、『田園型政令指定都市：新潟』の「副次都市拠点」として機能が求められています。

この機能を果たすためには、「公共交通ネットワーク」の機能拡充が最も重要となると考えられます。

新津地域における「公共交通ネットワークの機能拡充」については、新潟都市部や周辺地域拠点と連携するための「広域交通網」、新津地域内の各地域拠点間を連絡する「区域内交通網」の機能拡充が必要であると考えます。

また、こうした交通網の機能拡充にあたっては、新津の特性である『鉄道』を活用した方策が求められます。

新津には、6箇所の JR 鉄道駅があり、合併建設計画で新設が計画されている新駅、小須戸地域内にある鉄道駅も含めて、鉄道駅周辺の機能強化をはじめ、各駅間を連絡する公共交通機関等の整備も検討課題として上げられる。

「広域交通網の機能拡充に関する検討課題

403号の4車線化、460号バイパスの早期実現

新潟駅南口～弁天線～460号～新ICを結ぶ「新・幹線道路」の検討

新津市都市計画マスタープランで計画されていた「(仮称)新津西IC」を『スマートインターチェンジ』として設置することを検討

「区域内交通網の機能拡充に関する検討課題

鉄道駅間を結ぶバス運行等の検討(新津駅バス発着場の位置、循環バス)

小型マイクロバスの運行や福祉タクシー利用者への公的補助の検討

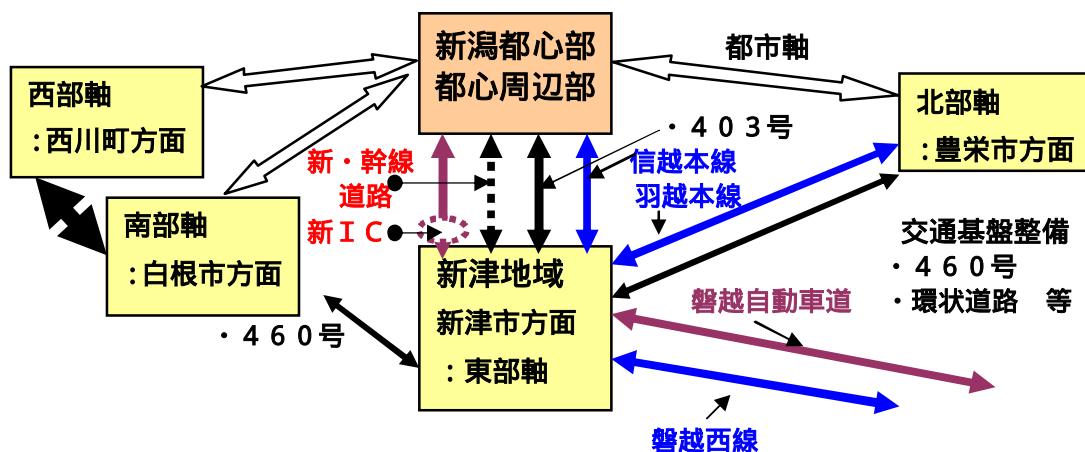
『鉄道』を活用した機能拡充に関する検討課題

蒲ヶ沢に「新鉄道駅」を設置

「矢代田駅」周辺の機能整備

パークアンドライドシステムの検討

新津地域の「公共交通ネットワーク」：システム図



5. 「駅前・本町地域」周辺のまちづくりに関する提言

「駅前・本町地域」周辺のまちづくりコンセプト

『おもてなしの心』を大切にしまちづくり

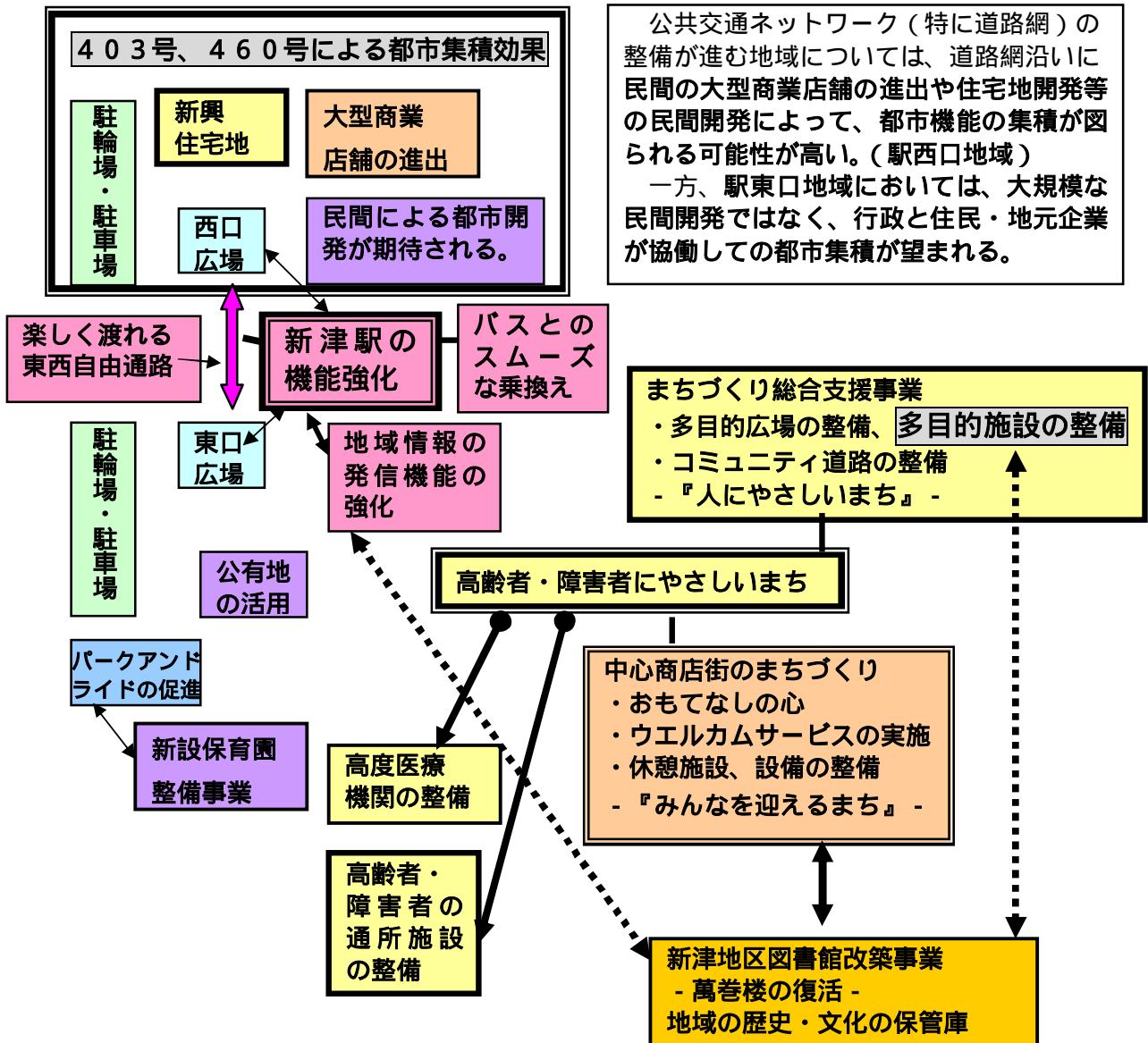
- 「みんなを迎えるやさしいまち」
- 「単なる交流の場」から、『全人的なつきあい』が出来るまちづくり
- 「人間関係を大切にしまち」
- 「社交文化に支えられたまち」
- 『高齢者・障害者にやさしいまち』『歩いて楽しいまち』
- 「車中心から人中心へ」
- 「バリアフリーからユニバーサルデザインへ」

駅西口地域、駅東口地域が一体となって発展するまちづくりへ

駅西口地域

〔両地域が一体となって発展するまちづくり〕

駅東口地域



6 . 文化会館、総合体育館、図書館等に関する提言

文化会館、総合体育館、図書館等の施設整備の方向性、建設場所については、中心市街地の活性化を図るという観点から以下の4案が考えられます。

実際の施設整備にあたっては、施設内容、施設規模等を住民参画型で明確にした上で、用地取得、建設費等の予算面も考慮して行うことが重要となります。

各案の提案内容の概要

第1案：駅東側地域の活性化に重点を置いた整備計画案

総合体育館と文化会館又は文化会館と多目的施設を複合型で建設。

：「建設候補地 A：新津0番線駐車場及び旧バスセンター跡地付近」
「新潟アルビレックス」等との連携を検討する。

中心市街地商店街と整備施設との連携方法の検討が不可欠。

利用者用駐車場の確保が課題となる。

多目的施設：「建設予定地 A：新津0番線駐車場等」

文化会館との併設も検討する。(この場合は、総合体育館は単独型)

図書館は単独で、現在の建物に隣接した位置で改築。

高度医療機関：「建設候補地 C：新津駅西口のJR施設跡地」

高度医療機関の設置については、今後の検討課題。

新設保育園：「建設候補地 B：新津駅北側の駐車場」

高齢者通所施設、障害者通所施設：「建設候補地 BまたはC」

新設保育園、高度医療機関の内、いずれかと併設することを検討。

第2案：駅東側地域の活性化に重点を置いた整備計画案

総合体育館を単独型で建設。

：「建設候補地 C：新津駅西口のJR施設跡地」

文化会館を単独又は文化会館と多目的施設を複合型で建設。

：「建設候補地 A：新津0番線駐車場及び旧バスセンター跡地付近」

多目的施設：「建設予定地 A：新津0番線駐車場等」

図書館は単独で、現在の建物に隣接した位置で改築。

高度医療機関：「建設候補地 B：新津駅北側の駐車場」

高度医療機関の設置については、今後の検討課題。

新設保育園：「建設候補地 B：新津駅北側の駐車場」

高齢者通所施設、障害者通所施設：「建設候補地 B」

新設保育園、高度医療機関の内、いずれかと併設することを検討。

* 第1案、2案は、新津駅東側地域の活性化に重点を置いた計画案であり、この案が実施される場合には、中心市街地商店街が整備施設（特に総合体育館、文化会館）利用者のニーズに対応した営業形態を展開するなどの具体的な連携方法の検討が不可欠となる。

また、文化会館と多目的施設の併設・複合化をはじめ両施設の機能分担を考慮することが重要となる。

第3案：総合体育館の機能充実を重点にした整備計画案

総合体育館と文化会館を複合型で建設。

：「建設候補地 D：夕映えの跨線橋南側」

「新潟アルビレックス」等との連携を前提とする。

広い敷地の確保が可能。（利用者用駐車場の確保が図れる。）

プロ球団と連携することに伴う経済効果で、地域活性化を図る。

多目的施設：「建設予定地 A：新津0番線駐車場」

多目的施設の機能拡充のために文化会館との複合型も検討する。

（この場合は、文化会館はA、総合体育館は単独型でDに建設。）

図書館は単独で、現在の建物に隣接した位置で改築。

高度医療機関：「建設候補地 C：新津駅西口 JR 施設跡地」

高度医療機関の設置については、今後の検討課題。

新設保育園：「建設候補地 B：新津駅北側駐車場」

高齢者通所施設、障害者通所施設：「建設候補地 A、B、C」

新設保育園、多目的施設、高度医療機関のいずれかと併設。

* 第3案は、「新潟アルビレックス」等のプロ球団と連携することで、スポーツを通じて、子供達に夢を与えるとともに、ロゴの使用、新商品開発、施設内及び周辺地域での飲食・物販等を行うことで生まれる経済効果を期待するものであり、若手経済人の中からの声が強かった案である。

駅東側地域の活性化については、本町二番館の跡地に計画されている「多目的広場」及び、代替施設としての「多目的施設」の機能拡充や中心市街地商店街との連携を図る方法で検討することが重要となる。

第4案：総合体育館の機能充実を重点にした整備計画案

総合体育館と文化会館を複合型で建設。

：「建設候補地 C：新津駅西口の JR 施設跡地」

敷地形状等から「プロ」球団等との連携が困難な場合もある。

多目的施設：「建設予定地 A：新津0番線駐車場」

多目的施設の機能拡充のために文化会館との複合型も検討する。

（この場合は、文化会館はA、総合体育館は単独型でCに建設。）

図書館は単独で、現在の建物に隣接した位置で改築。

高度医療機関：「建設候補地 B：新津駅北側の駐車場」

高度医療機関の設置については、今後の検討課題。

新設保育園：「建設候補地 B：新津駅北側の駐車場」

高齢者通所施設、障害者通所施設：「建設候補地 A、B」

新設保育園、多目的施設、高度医療機関のいずれかと併設。

* 第4案は、第3案と同じく、総合体育館と文化会館を複合化することで施設の機能充実を図る案であり、敷地形状等から「プロ」球団等との連携が困難な場合も考えられ、その場合には、既存の発想に留まらずに、柔軟な発想でソフト面での魅力づくりを行うことが重要となる。

また、駅東側地域の活性化のためには、本町二番館の代替施設である「多目的施設」と中心市街地商店街との連携が不可欠となる。

文化会館、総合体育館、図書館等の建設場所に関する提案一覧

施設名	第1案	第2案	第3案	第4案
文化会館	A: 0番線駐車場	A: 0番線P	DまたはA	CまたはA
総合体育館	A: 0番線駐車場	C: 西口	D: 跨線橋南側	C: 西口
図書館	日宝町	日宝町	日宝町	日宝町
多目的施設	A: 0番線駐車場	A: 0番線P	A: 0番線P	A: 0番線P
高度医療機関	C: 西口JR跡地	B: 駅北側P	C: 西口	B: 駅北側P
新設保育園	B: 駅北側駐車場	B: 駅北側P	B: 駅北側P	B: 駅北側P
高齢者通所施設	BまたはC	B: 駅北側P	A、B、C	A、B
障害者通所施設	BまたはC	B: 駅北側P	A、B、C	A、B

建設候補地 凡例

A:「新津0番線駐車場及び旧バスセンター跡地付近」

B:「新津駅北側の駐車場：本町1丁目駐車場、善道町1丁目駐車場付近」

C:「新津駅西口のJR施設跡地」

D:「夕映えの跨線橋南側：大規模商業店舗進出地向かい」

文化会館、総合体育館等の「施設整備の理念」

文化会館、総合体育館、図書館等の施設整備は、かねてより、新津市民の強い要望があるものであり、財政状況等の変化にかかわらず、今回の合併に伴い、確実に施設整備が行われることを強く要望いたします。

文化会館、総合体育館、図書館等の公的施設は、これまで、施設管理を担当する行政側の立場で、計画されることが多く、利用者側からみた時に、使いやすい施設となっているかという点に配慮が足りなかったと考えており、各施設の具体的な計画段階では、利用者や広く市民の声を十分に活かした施設となるような『行政と市民が協働参画』できる仕組みを導入して、施設内容、施設規模等の検討を行うことを提案いたします。

文化会館、総合体育館、図書館等の立地場所は『将来のまちづくり』に直接大きな影響を与えるものであり、立地場所の選定にあたっては、政令指定都市全体のまちづくり、『新津地域のまちづくり』という、大きな理念・コンセプト等を十分考慮して、検討作業が行われることを期待します。

新津商工会議所「まちづくり協議会」としては、これらの公共施設を将来的に「新津地域の中心拠点」となる『新津駅を中心とした駅前・本町地域』等の活性化に繋げるという観点から、施設整備についての検討を行っています。

文化会館、総合体育館、図書館等の施設整備にあたっては、新津地域の目玉施設となるようなものとするのが重要であり、そのためには、単に「箱物」を造り上げるのではなく、ハード面、ソフト面での魅力ある施設整備とする必要があると考えます。

経済効率、投資効果という観点においては、3施設を単独型で整備することだけでなく、複合型や併設型での建設の検討も必要になると考えます。

建設地の選定にあたっては、公有地の活用を最優先しながらも、土地取得だけでなく、長期の借り上げ方式の検討や民間活力を活用したPFI方式の検討を行うなどの柔軟な発想での施設整備が重要であると考えます。

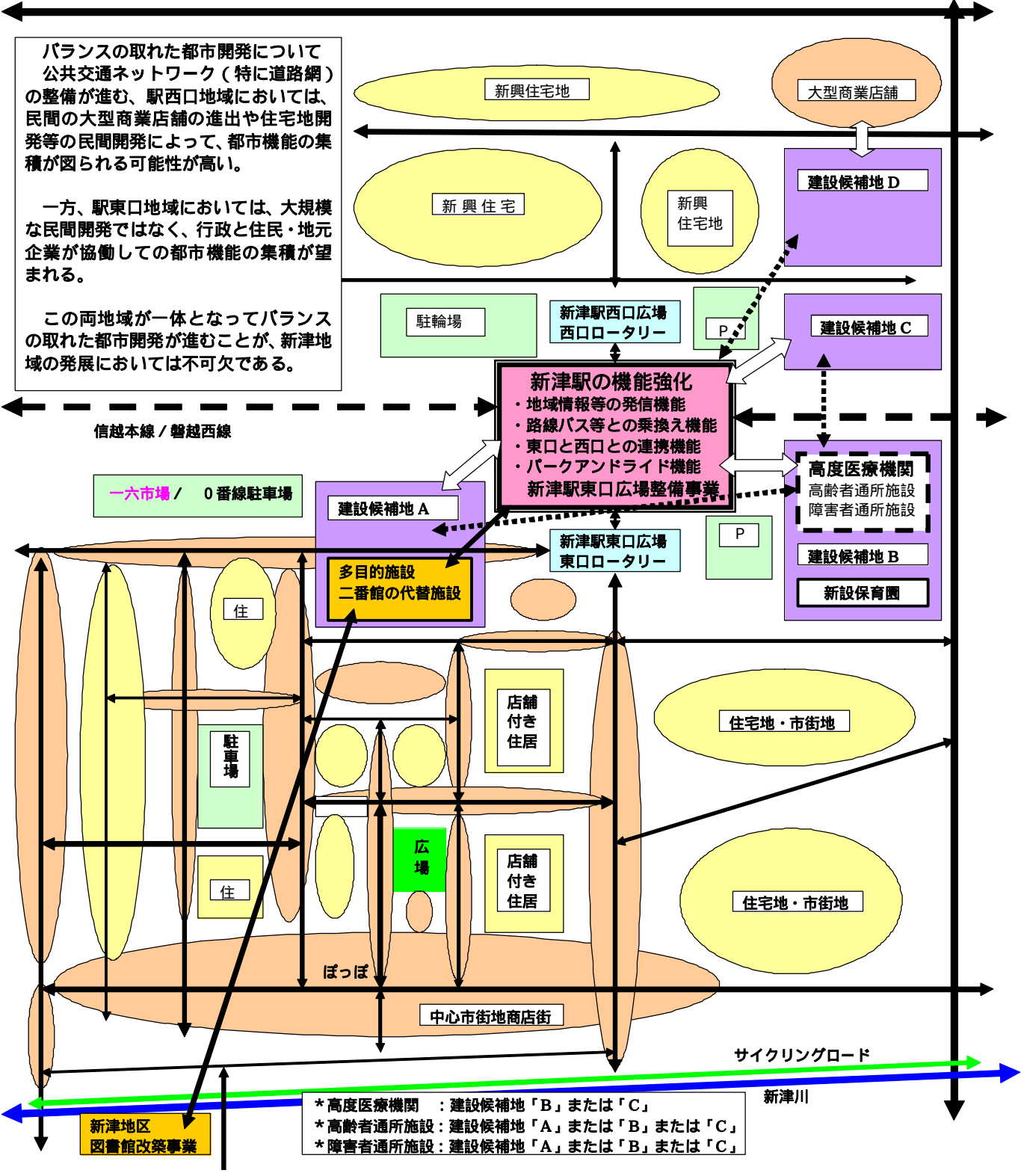
7. 「駅前・本町地域」周辺の『まちづくりビジョン』(案)

『希望の持てるまち』・『賑わいのあるまち』・『憩いのあるまち』を目指して！！

バランスの取れた都市開発について公共交通ネットワーク（特に道路網）の整備が進む、駅西口地域においては、民間の大型商業店舗の進出や住宅地開発等の民間開発によって、都市機能の集積が図られる可能性が高い。

一方、駅東口地域においては、大規模な民間開発ではなく、行政と住民・地元企業が協働しての都市機能の集積が望まれる。

この両地域が一体となってバランスの取れた都市開発が進むことが、新津地域の発展においては不可欠である。



- * 高度医療機関 : 建設候補地「B」または「C」
- * 高齢者通所施設 : 建設候補地「A」または「B」または「C」
- * 障害者通所施設 : 建設候補地「A」または「B」または「C」

新津地区
図書館改築事業

提言書：概要編

(1) 本提言書の作成経緯

本提言書は、「地域社会の発展」につなげていくための『まちづくりビジョン』を明らかにするとともに、その実現に向けての決意表明を行うものであり、これまでの、「まちづくり協議会」等での検討結果をもとに、事務局がとりまとめたものであります。

本提言書作成にあたっての作業フロー

『都市の将来ビジョンに関わる上位計画等の検討』

新潟都市圏総合整備推進協議会の『新潟都市圏ビジョン』を参考にしながら、「将来の都市像」のキーワードを整理。

『新潟市・新津市合併建設計画』における新津地域の役割の確認』

合併建設計画の中で示された「田園型政令指定都市」「分権型政令指定都市」における新津地域の役割等に関する確認。

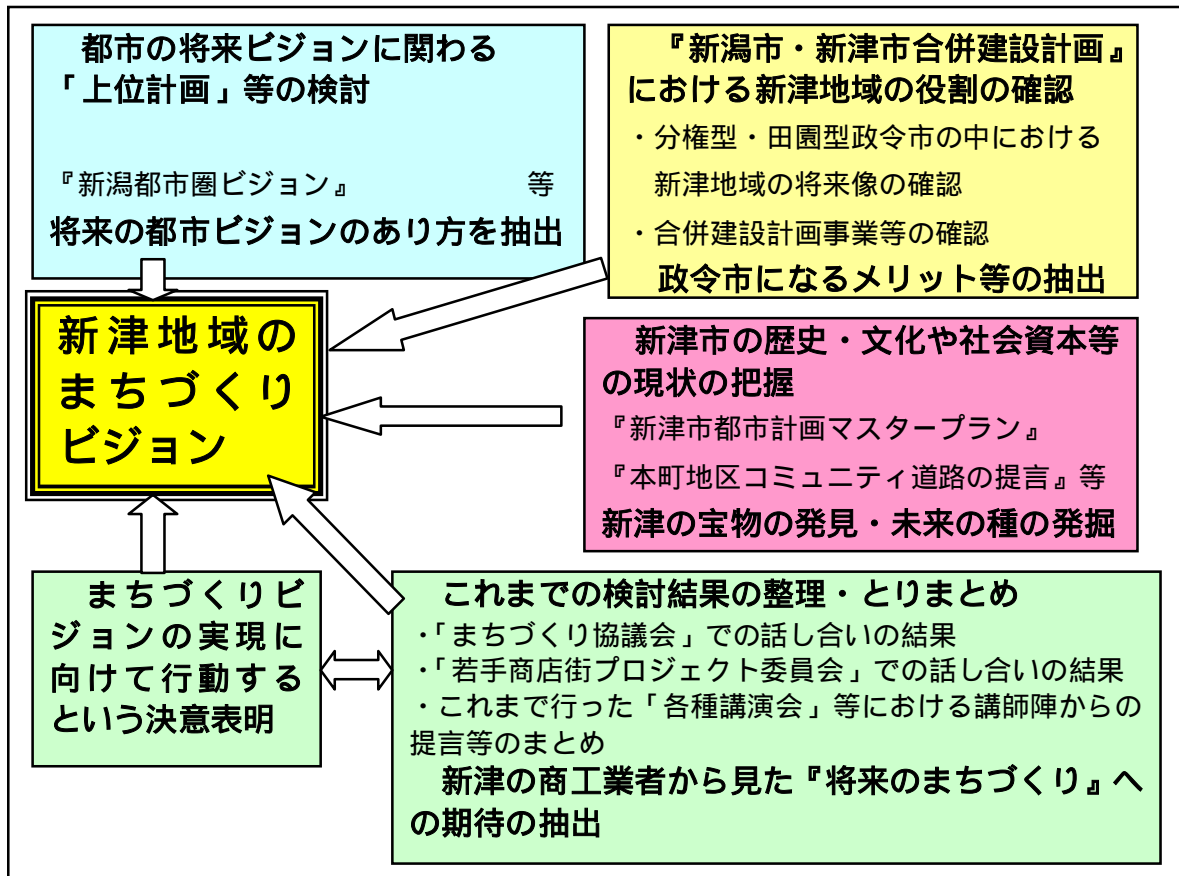
『新津市の歴史・文化や社会資本等の現状の把握』

新津市のHP上に掲載されている情報をもとに「新津の宝物」を整理する作業と「新津市都市計画マスタープラン」「本町地区コミュニティ道路の提言」を参考にして、新津市全体のまちづくりの方向性、駅前・本町地域のまちづくりの方向性を整理。

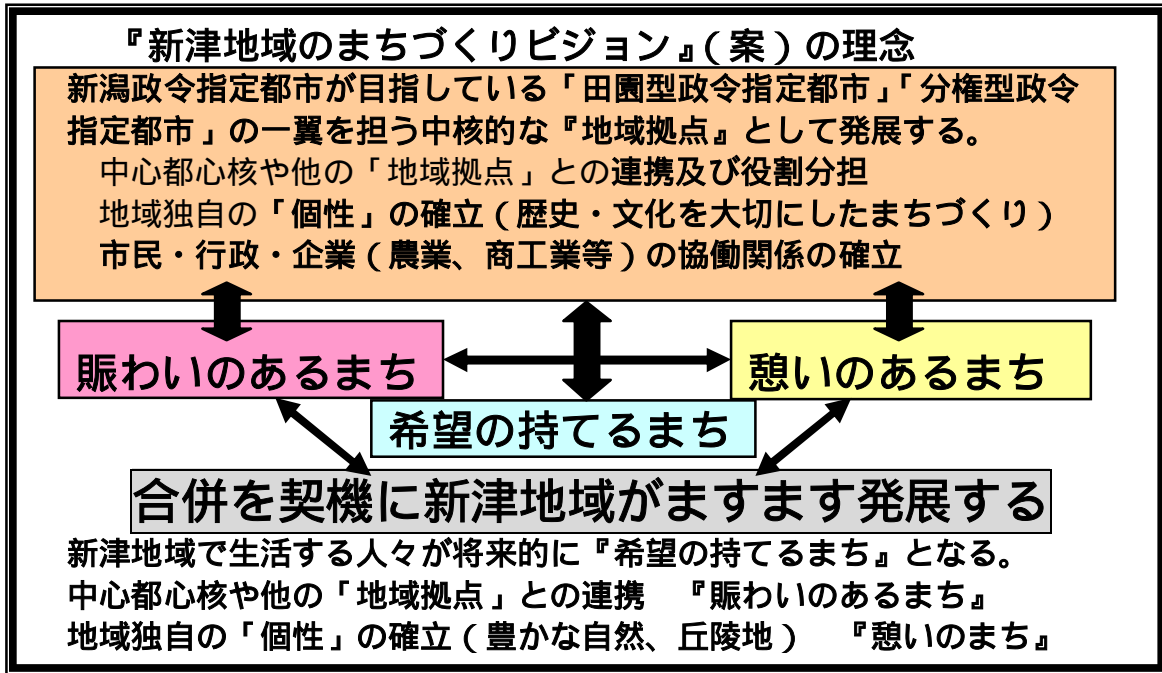
『新津の商工業者から見た「将来のまちづくり」への期待の抽出』

新潟商工会議所「まちづくり協議会」等で行われた、意見交換の内容を整理することにより、『将来のまちづくり』への期待を抽出。

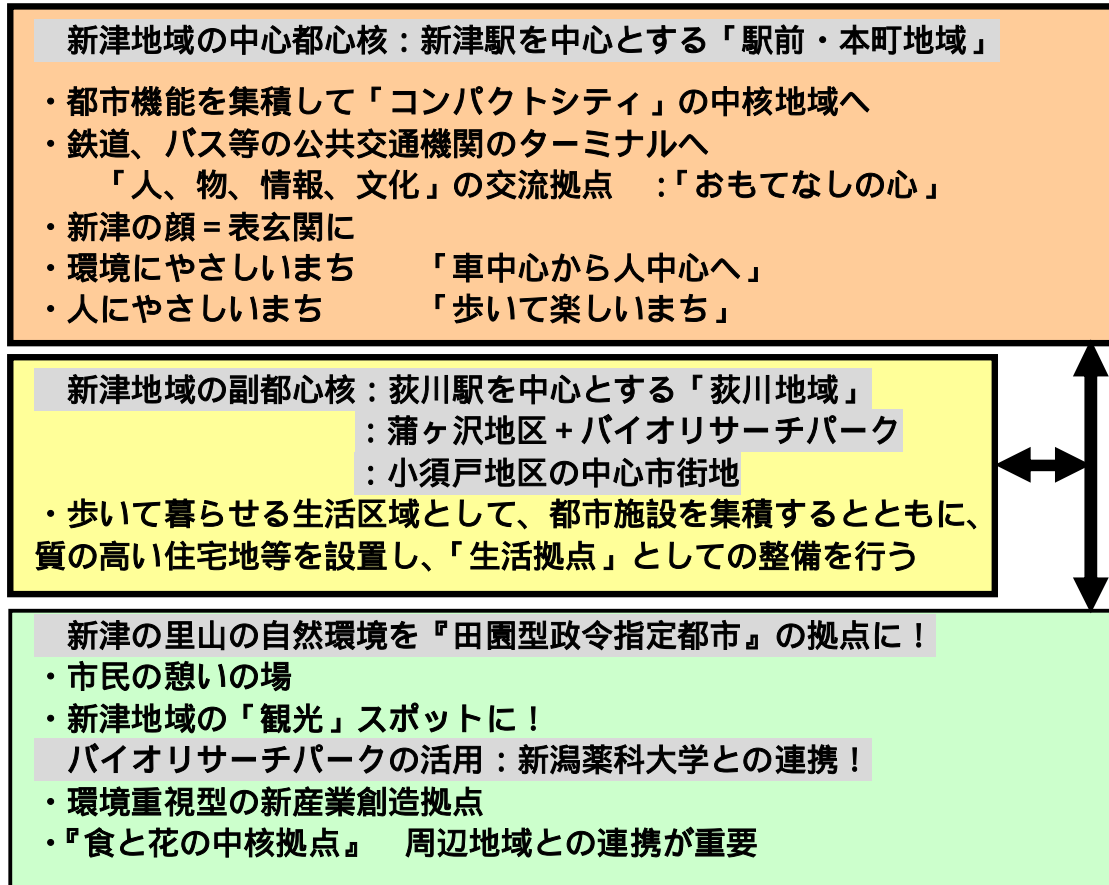
作業フローチャート



(2) 新津地域のまちづくりビジョン(案)の理念とコンセプト



新津地域内の各『地域拠点』のまちづくりコンセプト

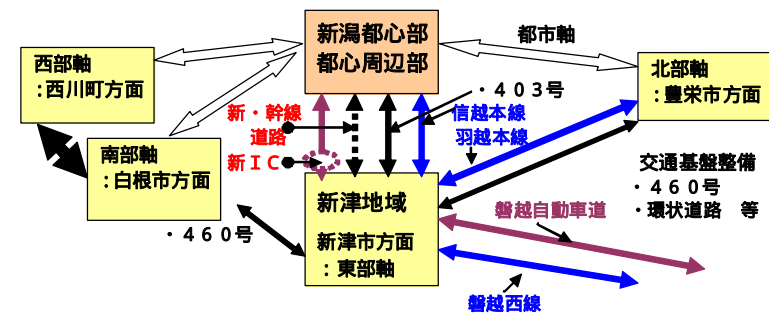


『新津地域のまちづくりビジョン』(案)

「公共交通ネットワーク」の機能拡充について

前述したように、『田園型政令指定都市：新潟』が「80万人口に象徴される政令指定都市効果」を十分に発揮するには、『新潟都心核』と新津地域をはじめとした各拠点間を結ぶ、公共交通ネットワークの充実が重要となる。

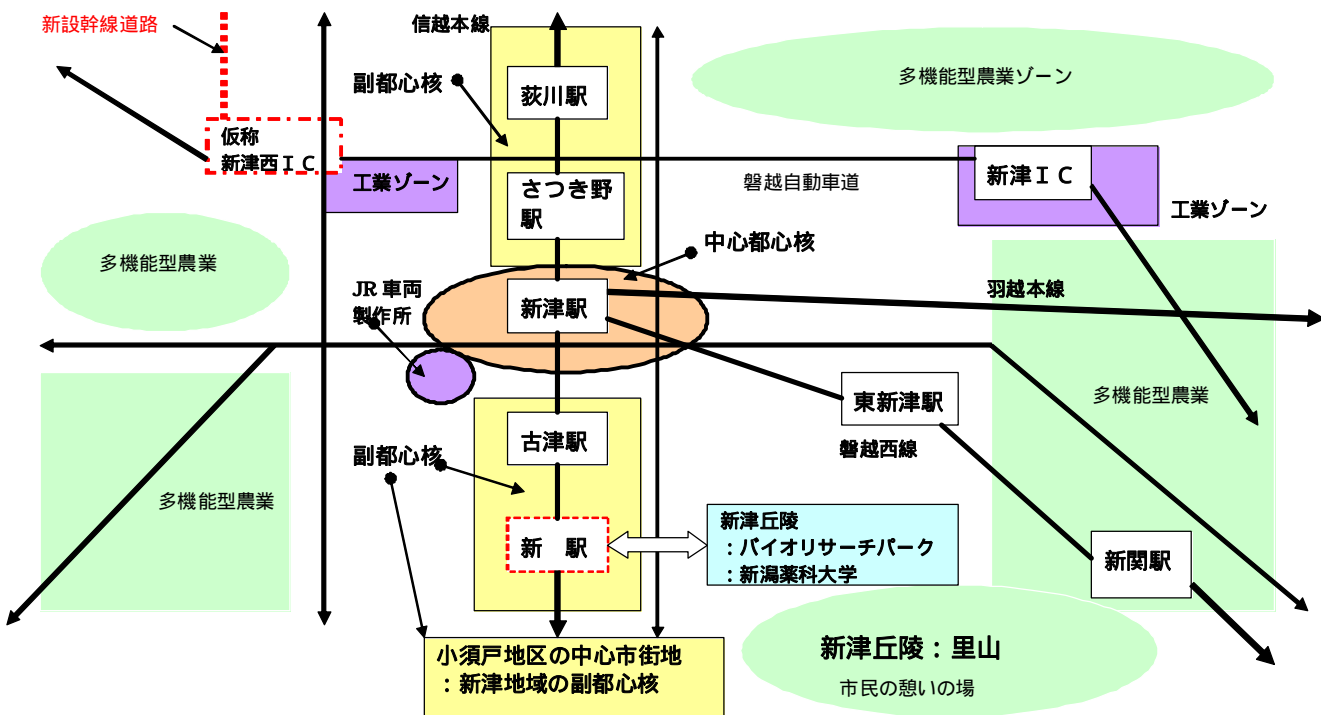
政令指定都市における都市ビジョン



403号の4車線化、460号バイパスの早期実現
 新潟駅南口～弁天線～460号～新ICを結ぶ「新・幹線道路」の検討
 新潟市都市計画マスタープランで計画されていた「(仮称)新津西IC」を『スマートインターチェンジ』として設置することを検討
 蒲ヶ沢に「新鉄道駅」を設置
 パークアンドライドシステムの検討
 鉄道駅間を結ぶバス運行等の検討
 (新津駅バス発着場の位置、循環バスの導入)
 小型マイクロバスの運行や福祉タクシー利用者への公的補助の検討

- 各都市軸を構成する地域拠点と新潟都心部との公共交通機能の拡充が重要となる。
- 新津地域では、鉄道網の機能充実をはじめ、右のような機能の整備が望まれる。

新津地域の全体都市イメージ(案)



新津地域は、新潟政令指定都市の東部軸の『中心都心核』であり、「新津丘陵の自然環境」を活かした『市民の憩いの場』、「バイオリサーチパーク、新潟薬科大学を活かした「バイオ技術」を活用した『新産業開発研究拠点』の機能充実が政令指定都市全体の魅力づくりから求められているが、新津地域の発展を左右するものは、『新津駅を中心とした中心都心核』をどのように整備していくかということにかかっており、こうした視点からの積極的な「都市基盤整備」等の促進に関する方策の実現が望まれます。

(3) 駅前・本町地域(中心都心核)周辺に求められる必要機能

新津地域の中心都心核として『新津の顔』となる『駅前・本町地域』においては、「みんなを迎えるやさしいまち」「人間関係を大切にしたまち」「社交文化に支えられたまち」「車中心から人中心へ」「バリアフリーからユニバーサルデザインへ」というコンセプトから、以下のような機能整備が望まれる。

まちづくりのコンセプトから求められる必要機能等について

『おもてなしの心』を大切にしたまちづくり

「みんなを迎えるやさしいまち」

「単なる交流の場」から、『全人的なつきあい』が出来るまちづくり

「人間関係を大切にしたまち」

「社交文化に支えられたまち」

『高齢者・障害者にやさしいまち』『歩いて楽しいまち』

「車中心から人中心へ」

「バリアフリーからユニバーサルデザインへ」

新津地域の表玄関である新津駅の機能強化

- ・新津の地域観光情報、特産品情報等を発信する機能
- ・路線バス等とのスムーズな乗り換えが出来る機能
- ・東西自由通路の活用による「駅東口」と「駅西口」の連携強化
- ・パークアンドライド機能の強化

バス運行の拡充の検討

- ・循環バス等の運行の検討

地域内の歩道等の整備

- ・コミュニティ道路の整備(バリアフリーからユニバーサルデザインへ)
- ・新津川のサイクリングロードと連携した自転車道路の整備
- ・道路整備とあわせて、一時パーキング設備の設置を検討

来街者への「ウエルカム・サービス」の検討

- ・商店街のプランター等の充実(ゲストを花を持って迎える)
- ・買い物客の利便性を高めるサービスの実施

(会津若松市の七日町商店街では、買い物客のサービスとして、お茶の提供、荷物の一時預かり、トイレ利用、傘の貸出等を行っている。)

休憩施設・憩いの設備の整備

- ・「まちの駅ぽっぽ」等の休憩施設やベンチ等の憩いの設備を整備
- ・多目的広場の整備

都市機能の集積

- ・図書館の機能強化(新津の歴史・文化の伝承機能の強化)
- ・保育園の新設
- ・行政サービス窓口機能の強化
- ・二番館の代替施設(多目的施設)の機能強化
- ・高齢者・障害者に対応した「通所施設」の設置を検討
- ・第2新潟市民病院的な高度総合医療施設の設置を検討

(4) 「駅前・本町地域」周辺のまちづくりに関する提言

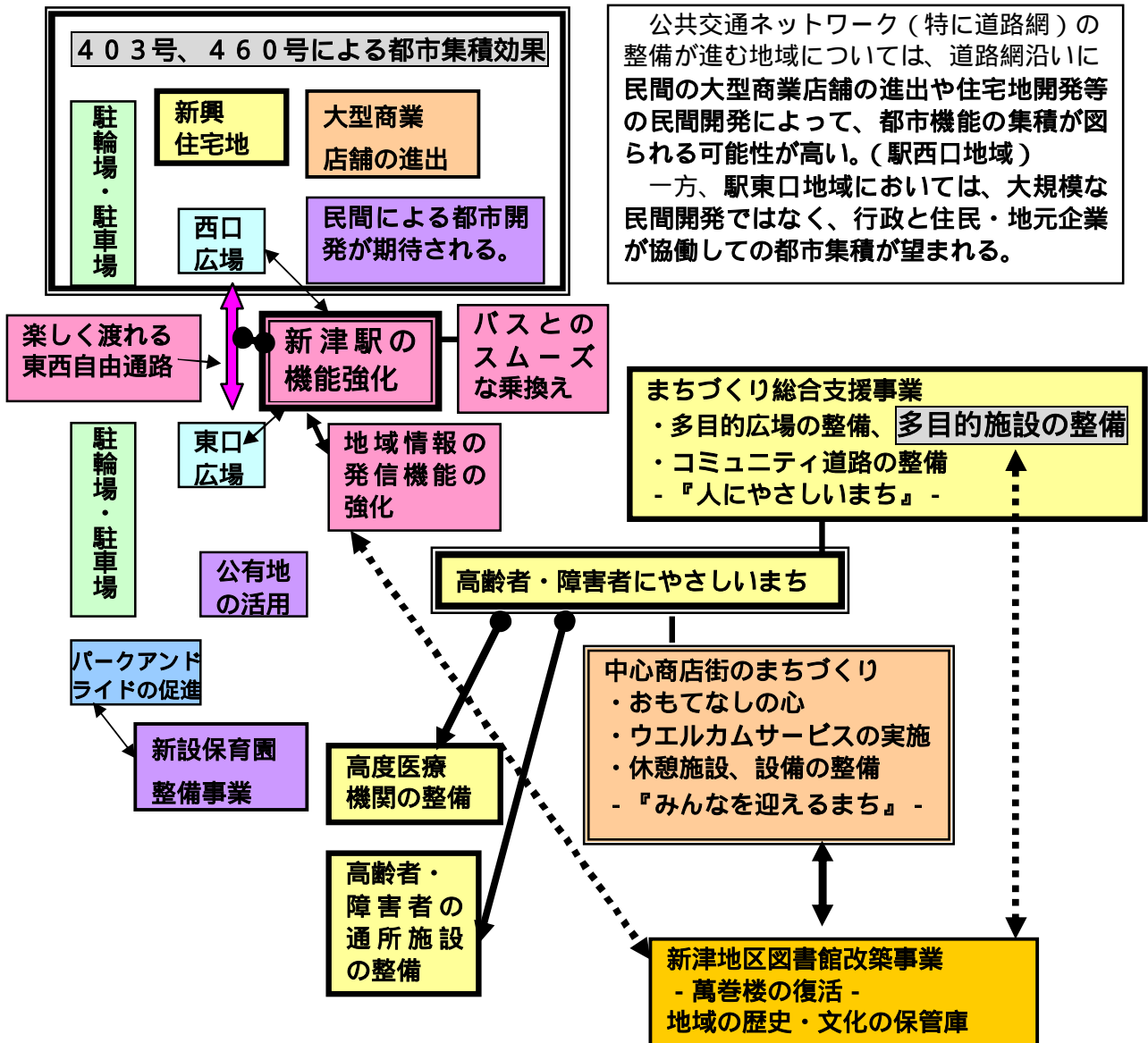
「駅前・本町地域」周辺のまちづくりコンセプト
 『おもてなしの心』を大切にしたまちづくり
 「みんなを迎えるやさしいまち」
 「単なる交流の場」から、『全人的なつきあい』が出来るまちづくり
 「人間関係を大切にしたまち」
 「社交文化に支えられたまち」
 『高齢者・障害者にやさしいまち』『歩いて楽しいまち』
 「車中心から人中心へ」
 「バリアフリーからユニバーサルデザインへ」

駅西口地域、駅東口地域が一体となって発展するまちづくりへ

駅西口地域

〔両地域が一体となって発展するまちづくり〕

駅東口地域



(5) 文化会館、総合体育館、図書館等の整備に関する提言

施設整備の基本的な考え方・理念等について

文化会館、総合体育館については、かねてより、建設を求める要望が市民から出されている経緯があること、施設整備のやり方次第では、「新津地域の魅力づくり」に大きな役割を果たす施設となること等を考慮すると、施設の立地場所、施設の規模、施設内容（設備機器等も含めて）等について、広く、市民の声を聞くとともに、決定に至るプロセスについても、十分に情報公開を行うことが重要になると思います。

こうした認識を持った上で、今回の「文化会館」「総合体育館」等については、新津地域の中心拠点となる『駅前・本町地域』周辺の活性化及び新津地域全体の経済活動の活性化に繋げていくという観点から、以下のような「施設整備の理念」を提言いたします。

文化会館、総合体育館等の「施設整備の理念」

文化会館、総合体育館、図書館等の施設整備は、かねてより、新津市民の強い要望があるものであり、財政状況等の変化にかかわらず、今回の合併に伴い、**確実に施設整備が行われることを強く要望いたします。**

文化会館、総合体育館、図書館等の公的施設は、これまで、施設管理を担当する行政側の立場で、計画されることが多く、利用者側からみた時に、使いやすい施設となっているかという点に配慮が足りなかったと考えており、各施設の具体的な計画段階では、利用者や広く市民の声を十分に活かした施設となるような『行政と市民が協働参画』できる仕組みを導入して、施設内容、施設規模等の検討を行うことを提案いたします。

文化会館、総合体育館、図書館等の立地場所は『将来のまちづくり』に直接大きな影響を与えるものであり、立地場所の選定にあたっては、政令指定都市全体のまちづくり、『新津地域のまちづくり』という、大きな理念・コンセプト等を十分考慮して、検討作業が行われることを期待します。

新津商工会議所「まちづくり協議会」としては、これらの公共施設を将来的に「新津地域の中心拠点」となる『新津駅を中心とした駅前・本町地域』等の活性化に繋げるという観点から、施設整備についての検討を行っています。

文化会館、総合体育館、図書館等の施設整備にあたっては、新津地域の目玉施設となるようなものとするのが重要であり、そのためには、単に「箱物」を造り上げるのではなく、ハード面、ソフト面での魅力ある施設整備とする必要があると考えます。

経済効率、投資効果という観点においては、3施設を単独型で整備することだけでなく、複合型や併設型での建設の検討も必要になると考えます。

建設地の選定にあたっては、公有地の活用を最優先しながらも、土地取得だけでなく、長期の借り上げ方式の検討や民間活力を活用したPFI方式の検討を行うなどの柔軟な発想での施設整備が重要であると考えます。

施設整備の方向性としては、新津駅を中心とする「駅前・本町地域」に都市機能を集積することで、新津地域の中心都心核を構築し、地域の活性化を図ることであり、この観点から考えると、施設建設の候補地（案）としては、以下の4地点が考えられる。

建設候補地（案）の一覧と特徴等

建設候補地 A：「新津 0 番線駐車場及び旧バスセンター跡地付近」

特徴：公有地がほとんどであり、土地取得では大きな問題はないと考えられるが、施設内容や施設規模等によっては、民有地の取得が必要になるとともに、代替駐車場の整備が課題となる。（一六市場の開催場所も含め）
 また、まちづくり総合支援事業の多目的施設との調整が必要になる。
 ：新津駅東口広場の整備が完成すれば、車でのアクセス新津駅からのアクセスは良い。
 ：新津駅西口と東口のバランスの取れた都市整備という点では有効であると考えられる。

建設候補地 B：「新津駅北側の本町 1 丁目駐車場、善道町 1 丁目駐車場付近」

特徴：公有地がほとんどであり、土地取得では大きな問題はないと考えられるが、施設内容や施設規模等によっては、民有地の取得が必要になるとともに、代替駐車場の整備が課題となる。
 ：新津駅東口広場の整備が完成すれば、車でのアクセス新津駅からのアクセスは良い。
 ：新津駅西口と東口のバランスの取れた都市整備という点では有効であると考えられる。

建設候補地 C：「新津駅西口の JR 施設跡地」

特徴：敷地面積的には、何とかかなと思われるが南北に細長い敷地形状をしており、施設内容や施設規模等での制約が考えられる。（用地取得が課題）
 ：車でのアクセス、新津駅からのアクセスは良い。
 ：新津駅西口と東口のバランスの取れた都市整備という点では課題も考えられる。

建設候補地 D：「夕映えの跨線橋南側、大規模商業店舗進出地向かい」

特徴：広い敷地の確保が可能（民有地であり用地取得が課題）
 ：車でのアクセス、新津駅からのアクセスも良い。
 ：新津駅西口と東口のバランスの取れた都市整備という点では課題も考えられる。

文化会館、総合体育館、図書館等の建設場所に関する提案一覧

施設名	第1案	第2案	第3案	第4案
文化会館	A: 0番線駐車場	A: 0番線P	DまたはA	CまたはA
総合体育館	A: 0番線駐車場	C: 西口	D: 跨線橋南側	C: 西口
図書館	日宝町	日宝町	日宝町	日宝町
多目的施設	A: 0番線駐車場	A: 0番線P	A: 0番線P	A: 0番線P
高度医療機関	C: 西口JR跡地	B: 駅北側P	C: 西口	B: 駅北側P
新設保育園	B: 駅北側駐車場	B: 駅北側P	B: 駅北側P	B: 駅北側P
高齢者通所施設	BまたはC	B: 駅北側P	A, B, C	A, B
障害者通所施設	BまたはC	B: 駅北側P	A, B, C	A, B

文化会館、総合体育館、図書館等の建設場所に関する提言

文化会館、総合体育館、図書館等の施設整備の方向性、建設場所については、中心市街地の活性化を図るという観点から以下の4案が考えられます。

実際の施設整備にあたっては、施設内容、施設規模等を住民参画型で明確にした上で、用地取得、建設費等の予算面も考慮して行うことが重要となります。

各案の提案内容の概要

第1案：駅東側地域の活性化に重点を置いた整備計画案

総合体育館と文化会館又は文化会館と多目的施設を複合型で建設。

：「建設候補地 A：新津0番線駐車場及び旧バスセンター跡地付近」

「新潟アルビレックス」等との連携を検討する。

中心市街地商店街と整備施設との連携方法の検討が不可欠。

利用者用駐車場の確保が課題となる。

多目的施設：「建設予定地 A：新津0番線駐車場等」

文化会館との併設も検討する。(この場合は、総合体育館は単独型)

図書館は単独で、現在の建物に隣接した位置で改築。

高度医療機関：「建設候補地 C：新津駅西口のJR施設跡地」

高度医療機関の設置については、今後の検討課題。

新設保育園：「建設候補地 B：新津駅北側の駐車場」

高齢者通所施設、障害者通所施設：「建設候補地 BまたはC」

新設保育園、高度医療機関の内、いずれかと併設することを検討。

第2案：駅東側地域の活性化に重点を置いた整備計画案

総合体育館を単独型で建設。

：「建設候補地 C：新津駅西口のJR施設跡地」

文化会館を単独又は文化会館と多目的施設を複合型で建設。

：「建設候補地 A：新津0番線駐車場及び旧バスセンター跡地付近」

多目的施設：「建設予定地 A：新津0番線駐車場等」

図書館は単独で、現在の建物に隣接した位置で改築。

高度医療機関：「建設候補地 B：新津駅北側の駐車場」

高度医療機関の設置については、今後の検討課題。

新設保育園：「建設候補地 B：新津駅北側の駐車場」

高齢者通所施設、障害者通所施設：「建設候補地 B」

新設保育園、高度医療機関の内、いずれかと併設することを検討。

* 第1案、2案は、新津駅東側地域の活性化に重点を置いた計画案であり、この案が実施される場合には、中心市街地商店街が整備施設（特に総合体育館、文化会館）利用者のニーズに対応した営業形態を展開するなどの具体的な連携方法の検討が不可欠となる。

また、文化会館と多目的施設の併設・複合化をはじめ両施設の機能分担を考慮することが重要となる。

第3案：総合体育館の機能充実を重点にした整備計画案

総合体育館と文化会館を複合型で建設。

：「建設候補地 D：夕映えの跨線橋南側」

「新潟アルビレックス」等との連携を前提とする。

広い敷地の確保が可能。（利用者用駐車場の確保が図れる。）

プロ球団と連携することに伴う経済効果で、地域活性化を図る。

多目的施設：「建設予定地 A：新津0番線駐車場」

多目的施設の機能拡充のために文化会館との複合型も検討する。

（この場合は、文化会館はA、総合体育館は単独型でDに建設。）

図書館は単独で、現在の建物に隣接した位置で改築。

高度医療機関：「建設候補地 C：新津駅西口 JR 施設跡地」

高度医療機関の設置については、今後の検討課題。

新設保育園：「建設候補地 B：新津駅北側駐車場」

高齢者通所施設、障害者通所施設：「建設候補地 A、B、C」

新設保育園、多目的施設、高度医療機関のいずれかと併設。

* 第3案は、「新潟アルビレックス」等のプロ球団と連携することで、スポーツを通じて、子供達に夢を与えるとともに、ロゴの使用、新商品開発、施設内及び周辺地域での飲食・物販等を行うことで生まれる経済効果を期待するものであり、若手経済人の中からの声が強かった案である。

駅東側地域の活性化については、本町二番館の跡地に計画されている「多目的広場」及び、代替施設としての「多目的施設」の機能拡充や中心市街地商店街との連携を図る方法で検討することが重要となる。

第4案：総合体育館の機能充実を重点にした整備計画案

総合体育館と文化会館を複合型で建設。

：「建設候補地 C：新津駅西口の JR 施設跡地」

敷地形状等から「プロ」球団等との連携が困難な場合もある。

多目的施設：「建設予定地 A：新津0番線駐車場」

多目的施設の機能拡充のために文化会館との複合型も検討する。

（この場合は、文化会館はA、総合体育館は単独型でCに建設。）

図書館は単独で、現在の建物に隣接した位置で改築。

高度医療機関：「建設候補地 B：新津駅北側の駐車場」

高度医療機関の設置については、今後の検討課題。

新設保育園：「建設候補地 B：新津駅北側の駐車場」

高齢者通所施設、障害者通所施設：「建設候補地 A、B」

新設保育園、多目的施設、高度医療機関のいずれかと併設。

* 第4案は、第3案と同じく、総合体育館と文化会館を複合化することで施設の機能充実を図る案であり、敷地形状等から「プロ」球団等との連携が困難な場合も考えられ、その場合には、既存の発想に留まらずに、柔軟な発想でソフト面での魅力づくりを行うことが重要となる。

また、駅東側地域の活性化のためには、本町二番館の代替施設である「多目的施設」と中心市街地商店街との連携が不可欠となる。

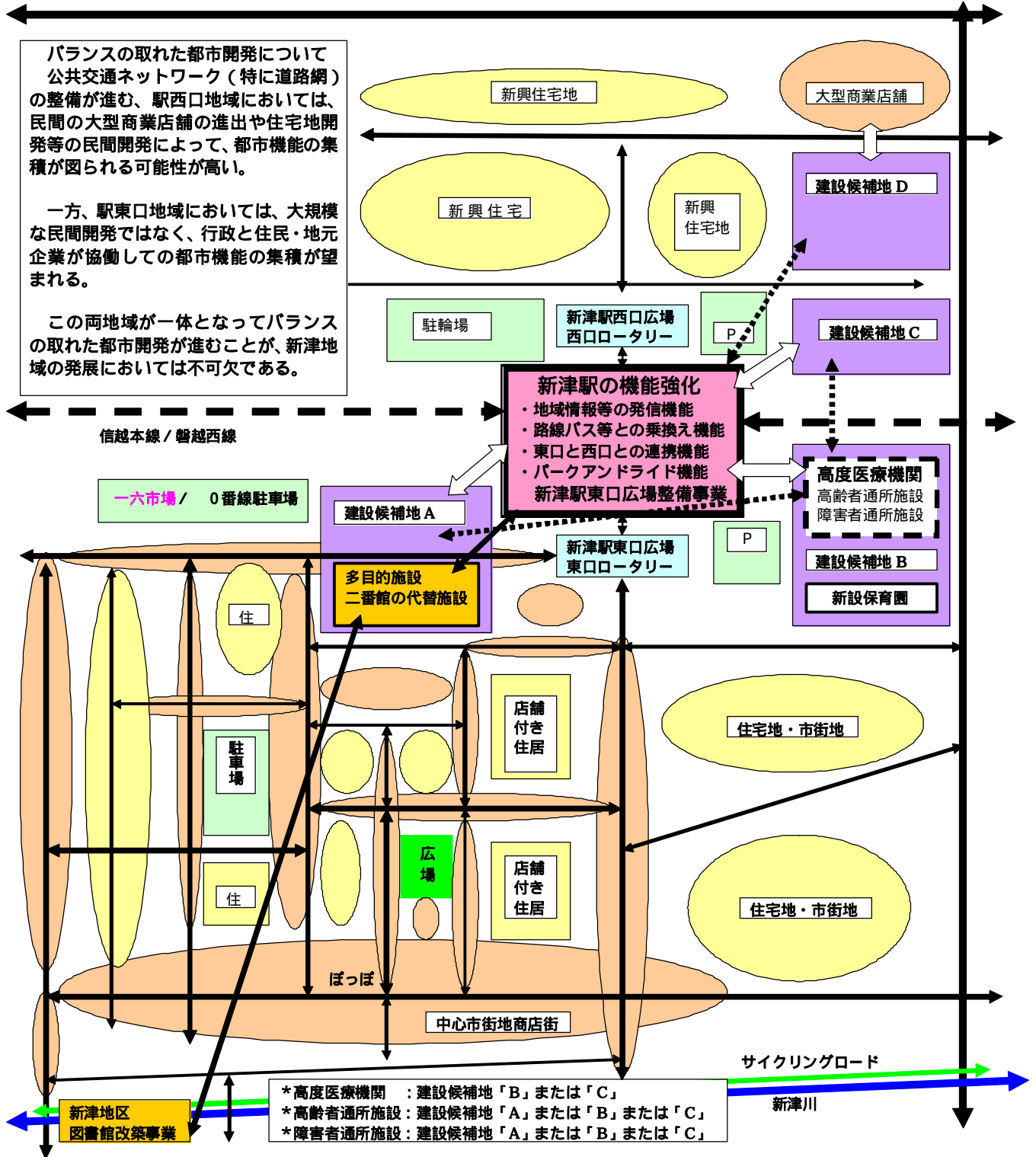
「駅前・本町地域」周辺の『まちづくりビジョン』(案)

『希望の持てるまち』・『賑わいのあるまち』・『憩いのあるまち』を目指して！！

バランスの取れた都市開発について
公共交通ネットワーク（特に道路網）
の整備が進む、駅西口地域においては、
民間の大型商業店舗の進出や住宅地開
発等の民間開発によって、都市機能の集
積が図られる可能性が高い。

一方、駅東口地域においては、大規模
な民間開発ではなく、行政と住民・地元
企業が協働しての都市機能の集積が望
まれる。

この両地域が一体となってバランス
の取れた都市開発が進むことが、新津地
域の発展においては不可欠である。



信越本線 / 磐越西線

一六市場 / 0番線駐車場

新津地区
図書館改築事業

- * 高度医療機関 : 建設候補地「B」または「C」
- * 高齢者通所施設 : 建設候補地「A」または「B」または「C」
- * 障害者通所施設 : 建設候補地「A」または「B」または「C」

サイクリングロード

新津川

ぼっぼ

中心市街地商店街

住宅地・市街地

住宅地・市街地

店舗付き住居

店舗付き住居

広場

駐車場

住

住

建設候補地 A

多目的施設
二番館の代替施設

新津駅の機能強化
・ 地域情報等の発信機能
・ 路線バス等の乗換え機能
・ 東口と西口との連携機能
・ パークアンドライド機能
新津駅東口広場整備事業

新津駅東口広場
東口ロータリー

新津駅西口広場
西口ロータリー

駐輪場

新興住宅

新興住宅地

新興住宅地

大型商業店舗

建設候補地 D

建設候補地 C

高度医療機関

高齢者通所施設

障害者通所施設

建設候補地 B

新設保育園

(6)「まちづくり協議会」における意見交換のまとめ

新津地域の将来のまちづくりの方向性等について：共通認識が得られた点

新津駅を中心とした地域を「新津の顔」と位置付けて、「田園型政令指定都市」の一翼を担う『新津地域の中心市街地』としてふさわしい整備を行うことで、中心市街地の活性化と地域全体の活性化を図る。

今後のまちづくりや施設整備という点では、『合併することにより、新潟市民』となるのであり、現在、新潟市民の方々が享受している各種サービスと同等のサービスを受ける権利があるということを確認しておきたい。

新津商工会議所としての提言をまとめ、新津市当局、新潟市当局にお示しするとともに、この提言に盛り込まれた各事項の実現に向けて、今後も積極的に活動を展開する。

その意味で、「要望書」ではなく「提言書」という形で、検討結果のとりまとめを行う。

各施設整備に関する方向性等について：共通認識が得られた点

新津と同じく合併建設計画において、文化会館等の建設が計画されている地域があり、新・新潟市全体という視点から見た場合に、それらとどのような調整を図っていくのかが重要となる。

新津地域からみれば、他地域の住民の方々からも利用いただけるような独自性のある施設づくりが必要となる。(歴史・文化から施設整備を考える。)

各施設の具体的な整備内容については、「実際に利用される方」を中心として市民の声を設計段階から反映させた施設整備を行うことが必要となる。

各施設を整備する方向性としては、この施設を整備し、それを利活用することによって、『中心市街地の活性化』に繋げていこうということであり、この観点から施設立地を考慮する必要がある。

図書館も含めた、3施設は、かねてから市民要望が強かった施設であるとともに、合併建設計画に盛り込まれている施設であり、今後の予算状況等の如何にかかわりなく、確実かつ出来る限り早期の整備実現が必要になる。

施設整備にあたっては、新津地域の目玉施設となるようなものとするのが重要であり、単に「箱物」を造り上げるのではなく、ハード面、ソフト面においても魅力ある施設整備をする必要がある。

3施設の整備予算は、現時点で73億円程度となっている。

この73億円は言うまでもなく公金であり、事業実施にあたっては、経済効果、投資効果という点から、複合化できるものは複合化を検討したり、用地取得についても、長期の借り上げ方式の検討や民間活力を活用したPFI方式の検討を行うなどの柔軟な発想での施設整備が重要である。

話し合いの中で、合意に至らなかった点としては、施設ごとの具体的な施設整備に関する事項と具体的な設置場所に関する事項が上げられる。

ここでは、出来るだけ話し合いで出された意見を落とすことなく、整理し、いくつかの複数案という形での整理を行った。

具体的な施設整備に関する事項について

〔総合体育館に関して〕

総合体育館を3施設のメイン施設と捉えて、重点的整備を行う。

他市町村の稼働率等からみても、総合体育館の稼働率が高い。

新津地域の魅力アップに繋がる施設となると3施設並行での施設整備を行うとなると予算的に無理があるのではないか。

出来るのであれば、1つに焦点をあてて、素晴らしい施設整備を行うことが考えられる。

子供に将来への夢を持ってもらうという点でいえば、スポーツに関しては、プロ球技者との交流が出来ることが一番効果的であると考えられる。

プロ競技者が競技できる施設で、プレーするという事は、非常に魅力的なことであり、施設整備後の稼働率という点でも期待ができる。

体育館でいえば、バスケットチームの「新潟アルビレックス」があり、こうしたプロ団体との連携を検討することも重要となる。

施設に対する投資効果、新津地域全体に対する経済効果という面では、新潟アルビレックスとの提携を考えることは、大きな効果が期待できる。

また、現在、新潟アルビレックスは、フランチャイズ的な練習施設、興行が行える施設を探しているという状況であり、連携、提携という方向性は、可能性がまったくないものではない。

(会議の席上、委員の内数名が実際に新潟アルビレックス球団幹部と面識があり、連携できる体育施設を探しているという話があったことが紹介された。)

新津地域は、昔から「バスケット」が盛んな地域であり、また、現在も、市内の体育施設で行われている新潟アルビレックスが主催する「バスケット教室」に多くの親子が参加している。

新潟アルビレックスでは、こうした「バスケット教室」を各地で開催しており、公式試合の前座試合等で、各地の「ちびっ子チーム」同士のゲームを行うなどの活動も行っている。

興行的には、観客席数は、固定席、可動席を含めて、3,000～4,000席が最低でも必要になる。

また、プロの興行という点からは、観客が客席で、観戦しながらの飲食が可能となるような配慮が必要である。

プロ球団との連携を考えた場合、体育館には、充実したトレーニングルーム、シャワールーム、更衣室等の設備が必要になるとともに、大規模な駐車場施設その他の付随施設の整備も必要になると思われる。

仮に、こうした方向性で施設整備を行う場合には、文化会館等との複合化を図ることが効率的な施設整備として考えられる。

市民が利用することを最重要事項として考えた施設整備を行う。

プロ球団との連携という観点ではなく、市民が利用することを最重要事項として考えた施設整備を行うことが重要である。

合併すれば、新潟市民になるのであり、現在、新潟市には、各種機能を備えた総合体育館があることを考えると、同じ市民として、同等のサービスを受取る権利が市民にはあるという前提からみれば、最低でもこれらと同等もしくはそれ以上の設備等を備えた体育館の整備が必要である。

〔文化会館に関して〕

新津の芸能・音楽関係の市民サークル、団体等から、施設整備に対する要望が強い施設であり、施設整備の内容等については、こうした「実際に利用する」方々の意向を反映した施設整備とすることが重要である。

各施設整備に関する共通認識が得られた事項でも記述したが、3施設の施設整備においては、計画段階から、市民参画型での取り組みを行うことが最も重要な事項であり、こうした事業展開を行うことで、整備された各施設を市民の多くが「市民の宝物」として認識に、大切に利活用していくことができる。

協議会に参加した新津市担当課のお考えでも、具体的な施設整備の検討に際しては、こうした関心の高い市民の声を聞くことを行うと明言されていた。

まちづくり協議会 第3小委員会でも、文化会館の先進地視察を行っているが、そこでの事例においても、計画段階から、積極的に市民参加型で、施設づくりから施設の運営までを行っており、稼働率は、文化会館としては珍しく80%という高い稼働率となっている。

市民中心の利用形態を想定した場合には、300～800席程度の施設が望ましいと考えられる。

(例：300席程度の小ホールと500～800席程度の大ホール)

新津地域には、経済団体やロータリークラブ等の全国大会クラスの会議等を開催できるホール等がなく、今後、政令指定都市の「中核拠点地域」となるからには、朱鷺メッセ等で開催される各種の会議等の「エクスカージョン」候補地として、新津地域の魅力を全国に発信する意味からも大規模な施設を整備することも重要である。

施設規模としては、2,000人程度を収容できるものが望ましい。

〔新津の独自性を大切にしたい施設づくり〕

3施設の施設整備のあり方を考えるにあたっては、新津の歴史・文化などを十分に考慮した上で、検討を行って、施設整備に繋げていく必要がある。

また、新潟薬科大学との連携（総合体育館、文化会館、図書館の利用者として、学生さんを考えた場合）も重要な視点となる。

既存の発想に留まらずに、柔軟な発想でソフト面での魅力づくりを考える。

文化会館については、他地域から「プロ」を呼ぶという発想ではなく、「ステージの上も市民、客席も市民」という観点で考えることも重要で、そうした前提に立った上で、利活用のソフト面での柔軟な発想をしていくことで、十分に魅力ある、どこにもない施設づくりが可能になると考える。

突飛な発想であるかもしれないが、例えば

文化会館でいえば、新津地域の各町内会ごとに「合唱団」を結成して、年数回のコンテストを開催すれば、各合唱団の練習、コンテスト等の利用で稼働率は確保できる。

また、総合体育館であれば、いっその事、床をはずして、土間とすることで、天候に左右されずに、室内で「運動会」が開催できる。

こんな柔軟で自由な発想に基づいて「ソフト面」の魅力づくりを行うことが大切になると考えます。

(7)「新しい新津地域のまちづくりに向けて」

本提言書は、今回の広域市町村合併を契機として、新津地域が今後ますます発展し、地域で生活する人々が『希望の持てるまち』、『誇りを持てるまち』となることを願って作成させていただいております。

今回の合併は、日本海側初の政令指定都市の実現を目指すものであり、新津地域も「新・新潟市」の中核地域として、積極的に将来の政令指定都市の魅力づくりに貢献する地域として、周辺地域と連携を図りながら、これまで培ってきた歴史・文化を背景とした地域の特性・特徴を十二分に活用しながら、より素晴らしい『新潟政令指定都市の実現』のために努力を続けていきたいと考えております。

特に、新津地域は今回の合併に関し、議会決議、住民アンケート、住民投票という、現在、考えられる合意形成手段の全てを行った上で、最終的に政令指定都市の実現を目指す「広域市町村合併」を選択したものであり、この選択の意義は非常に重いものであると認識しております。

新潟商工会議所は、当初から、政令指定都市の実現を目指す広域市町村合併は、将来の新津地域の発展のために不可欠であるという考え方で、合併に関する様々な活動を行ってまいりました。

合併に関する合意形成の過程においては、賛成・反対という立場で様々な議論が活発に行われ、まさに市民1人1人が真剣に「将来の新津地域のあり方」について考えることが出来たのではないかと思います。

合併に関しては、賛成・反対という立場が異なったものの、『将来の新津地域をより良くしていきたい』という想いは、全ての方々に共通していたのではないかと信じており、進むべき方向性が明確になったからには、『新潟地域の発展』のために力を合わせ、協働型で様々な活動を行っていければと願っています。

市民・企業（商工業・農業等）・大学等の研究機関・行政がそれぞれの特性を活かしながら、協働で「日本海側初の新潟政令指定都市」を実現させるとともに、政令指定都市効果を十分に活用しながら、その政令指定都市における中核地域として『新潟地域が発展する』ための活動を行うことが最も重要であり、新潟商工会議所としても、微力ながらこの一員として今後も様々な活動を行っていききたいと考えております。

新潟政令指定都市のイメージ

分権型政令指定都市・田園型政令指定都市

日本海側初の政令指定都市として、国内はもちろん、新潟の魅力づくりのためには、「環日本海側の拠点都市」としての『国際性の強化』が求められる。

政令指定都市効果を十二分に発揮

環日本海という視点からは、富山、金沢という強力なライバルが考えられこの競争に打ち勝つには、新潟市中心部だけでなく、今回合併する各地域がそれぞれの「魅力・宝物」を磨き上げ、連携することが重要である。

各地域の歴史・文化を大切にした『分権型政令指定都市』

食料自給率が60%を超える政令指定都市（他に類を見ない）

都市機能と自然・生産機能が融合 = 『田園型政令指定都市』

生産者と消費者の協働が可能：互恵の関係

食を切り口にした連携（新産業の創造等）

（バイオ技術、生産者、加工業者、流通業者、飲食店、販売店、消費者等の協働による魅力づくり：新作物、新商品、新サービスの研究・開発）

政令市効果を活用

相互連携：互恵の関係

新津地域のまちづくり：新潟政令指定都市の『中核拠点地域』

新津地域の『発展の方向性』：目指すべき方向性

新津地域が有している宝物を政令指定都市の中で活用する。

自然、丘陵、鉄道機能、バイオ技術等々

中核拠点としてふさわしい『地域の顔の創造』：『賑わいの創出』

新津駅を中心とした「駅前・本町地域」への都市機能の集積

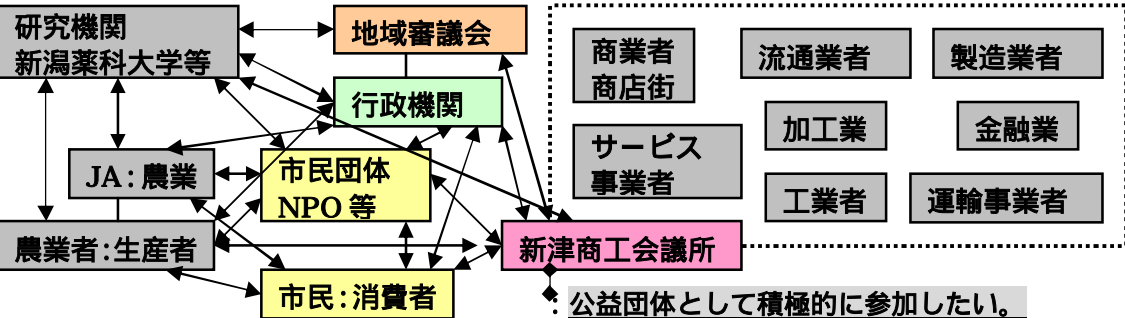
「おもてなしの心」に支えられたまちづくりの実現：『憩いのあるまち』

人にやさしいまち、ユニバーサルデザイン

地域で生活する人々に支えられた「まち」の実現

『誇りの持てるまち』『希望の持てるまち』

みんなで協働して『新津地域の発展』を実現しよう！



まちづくりを実現する仕組みづくり：民・産・官・学の協働体制の確立